

### 学生相談室

学生相談室では、こころやからだの悩み、学修や履修について、人間関係やアルバイトなど、学生生活で生じるさまざまな悩みの相談に応じる。生田・神田両キャンパスに事務室とカウンセリングルームがあり、計5人のカウンセラーが在室している。

相談について、初回は原則として電話または来室での予約が必要だが、柔軟に対応し、相談回数に制限はない。必要に応じて、学内の各部署や、学外の機関につなげる。保護者からの相談も受け付ける。

## 新室長に大矢根淳人間科学部教授

### 「何かを考える最初の足場」

今年度、学生相談室長に人間科学部の大矢根淳教授が就任した。

大矢根室長は「学生相談室は学生にとってのプラットフォーム。何かを考えるときに、最初の足

生田キャンパス学生相談室前で



場になる場所だと思えます」と語る。悩んだときにどこに行けばいいか、そもそも何を悩んでいるか分からないモヤモヤした感情を抱えたとき、相談室で話すことで、解決

への足掛かりになる。「専門的な場所ではありませんが、もっと日常に近い場所として捉えてみてください。」

大矢根教授は、災害被災地での調査や防災システム工学に長く携わってきた。その経験から、「すぐに答えを出すことは必ずしも重要ではありません」という。対話を通じて「モヤモヤが整理され、腑に落ちる経験がある」と、自分自身について、少し距離を置いてみる。そのプロセス自体が

強などで利用できる。また、年間を通じて各種イベントを実施している。1面で紹介した「やさしいキャンパスプロジェクト」は、学生相談室が主催し、有志の学生が参加。ピアサポーター(下記障がい学生支援室の項参考)などの学生団体や図書館などと協力して、「やさしさ」を広げる活動に取り組んでいる。

### 【相談したい時】

対面相談は1回約50分。事前予約が必要

**生田キャンパス**

生田キャンパス B1階 学生相談室  
グリーントップ

生田緑地

2号館 3号館 4号館

インフォメーション 正門

グリーントップB1階 Tel 044-911-1278  
【平日】9:00～16:00

**神田キャンパス**

神田キャンパス

5号館 1～3号館 10号館 9号館

黒門 専大通り

至 九段下駅 靖国通り 至 神保町駅

神田9号館2階 Tel 03-3265-6216  
【平日】9:00～16:00

# 一人一人に寄り添い、ともに考える

学生一人一人が充実した大学生活を送れるよう手助けする機関の一つとして、本学では「学生相談室」と「障がい学生支援室」を設けている。それぞれ、専門資格を持つスタッフが、学生の「困った」や「どうしよう」に寄り添い、解決に向けてともに考えていく。

## 学生相談室

## 障がい学生支援室

### 障がい学生支援室



本学に在籍する障がいの学生一人一人が、障がい特性により生じる困難や社会的障壁にはばまれることなく、学修や研究に取り組めるように支援を行っている。生田・神田両キャンパスに専門のコーディネーターが在室。困りごとや支援ニーズを丁寧に聴き取り、支援内容や方法を検討・調整する。

学生スタッフであるピアサポーターと連携し、障がい学生への修学サポート活動を進めています。支援を希望する学生数は年々増えています。多様なニーズに対応できるように、支援室が中心となって全学で取り組みを充実させていきたいと思えます。

**生田キャンパス**

生田キャンパス

保健室 キャンパス・ハラスメント対策室

学生生活課

障がい学生支援室

生田4号館1階 Tel 044-946-7001  
【平日】9:00～16:00

**神田キャンパス**

神田5号館3階  
※場所は学生相談室の地図参照  
Tel 03-3265-5749  
【平日】9:00～16:00

動と、交流や啓発を中心としたピアサポート活動を実施。障がいに関する理解促進を目的に、一般の学生や

教職員を対象にした各種体験講座も定期的開催している。

### 富川理充新室長(商学部)に聞く



「障がい学生支援室について教えてください。」

「障がいのある学生が学上の困りごとについて相談できる窓口です。保護者や教職員もご利用いただけます。専任スタッフが親身に対応するほか、学生スタッフのピアサポーターも多様な活動を展開し、聴覚障がい学生向けのノートテイク、バリアフリーマップの作成、学生食堂における「ゆずりあいシート(優先席)」の設置など、誰もが安心して学べるキャンパスづくり

「ご自身はパラトライアスロ日本代表のコーチを務めてこられました。支援についての考えを聞かせてください。」

「私はコーチとして、練習メニューを組み、より良い環境を整える一方で、選手は一人のアスリートとして練習に励み、試合に臨みます。お互いの関係性は「してあげる/してもらう」ではなく、あくまでも対等です。立場を尊重し理解し合いながら、それぞれがすべきことに力を尽くします。海外に行くこと、街中で障がいのある人となない人が自然に声をかけ合い、困りごとを解決している姿を目にします。そこに障がいの有無による

## 少しのやさしさで誰もが安心して過ごせる大学に

「学生たちにメッセージをお願いします。」

「私が担当する「学際科目(パラスポーツ)」の授業では、障がい者を取り巻く現状や課題、解決方法などを学びます。そのなかで学生には「今日から取り組めることは何か」を考えてもらいます。無関係だからと避けるのではなく、自ら関わる姿勢が大切です。皆さんにも、自分のできることを見つけて実践してほしいと思います。それぞれが今よりも少しずつやさしくなることで、誰もが安心して過ごせる大学、ひいては社会になると信じています。」

最後に、学生ならではの目線で支援・交流活動に参加してくれるピアサポーターを募集しています。興味のある学生は気軽に支援室を訪ねてください。